

## 序

聖戰今や第三年を迎へんとしてゐる。吾等の研究室出身者もその一割近くが劍を執り銃を手にして親しく興亞の大業に從事してゐる。この時に當つて吾人研究室にあるものは第一線勇士と同様の決心を以つて專心研究に從事し化學報國の實を擧げる他なにものも無いのである。

研究は勿論立派なる成績を擧げる事が第一である。然し一面いかにして早く結果を出すべきかと云ふ事が亦極めて重要な問題である。研究室の先輩諸氏が茲に新しく吾人の研究室に來る人々の爲めに多年の經驗を基にしてこの一書を編纂せられた。あえて一般世に問ふ物理化學實驗書では無いが各項皆自らの體験に依る尊い結晶である。而して後輩を誘導し様と云ふ美しい奉仕の精神から出來たものである。不肖吾が物理化學研究室の責任者となつて既に十數年、自ら何等なす處なかりしを常に耻てゐるが、幸に研究室に集る優秀なる若き學徒諸氏が、小にしても研究室の爲め、大にしても吾が國化學界の爲め、尊き時間を割いて幾多犠牲的の仕事をして下さつた事を何時も心から感謝してゐる。此の一書も亦その一つであつて、後輩を誘はうとする温い心よりなる努力の一端である。

新しく吾が研究室に來られる元氣に溢るゝ化學者よ、緒言にあるが如く本書を充分に利用する事により諸君の研究の成果を一日も早く擧げらるゝ事を希望すると共に、本書の編纂によつても窺はれる吾人の研究室の精神を理解せられん事を切望する。

昭和十四年六月

堀 場 信 吉